

## 編集後記

初めて編集に加えていただき、専門分野以外の多様な原稿も「ていねいに」読む機会を与えられ、まことに勉強になりました。今後も時折、このような「特集」をさまざまな角度から組んでみることは、『女性学評論』のさらなる充実につながるように思います。(A. F.)

計画通り「特集」が組めました。書評、報告も加わってかなりふ厚い第7号をお届けできることは、大きな喜びです。論文は、独・仏・英・米と日の順になっています。「普遍」と「個有」、興味はつきません。また何か「特集」をと欲張った？希望を持っております。いいテーマをご提案下さい。(T. H.)

すべての社会で人口の約半分はつねに女性である以上、カヴァーすべき学問領域もまた無限に多様だが、今回の『女性学評論』では初めて「女性と文学」という特集を組むことになった。各論稿によって提示された多様な論点が、今後の研究視野を明るく照射していく光源となることを念じた。 (F. M.)

編集委員を務めさせていただいて二年目に入りましたが、今年は、あっという間に過ぎてしまったという感じがします。しかしながら、沢山の投稿原稿や、興味深い書評が続々と寄せられて、私の如き無能な委員が含まれていても、勞せずして充実した『女性学評論』の発刊となりました。ご協力下さった方々に厚くお礼を申し上げます。(R. M.)

第6号は、力篇揃いではあったが篇数が少なく、創刊以来もっとも少ない頁数になってしまった。それに懲りて、第7号では、以前から話題に上っていた「女性と文学」の特集を組むことにした。執筆者を選定し依頼した結果、ご覧のように多くの論考が集まって、悦んでいる。ご協力下さった方々に、心よりお礼を申し上げる。(S. Y.)

